

## 5. 水利用の現状

### 5-1 水利用の変遷

河川の利用については、開拓農民による農業用水の利用に始まり、農業用水としては、約2,400haに及ぶ耕地のかんがいに利用され、水力発電としては、昭和33年に建設された岩知志発電所による最大出力13,500kw及び平成8年に建設された二風谷ダムの二風谷発電所による最大出力3,000kw、昭和34年建設された右左府発電所による最大出力25,000kwなどの電力供給が行われ、上水道用水としては、日高町、平取町、門別町に対して供給が行われている。

沙流川水系における利水状況は、かんがい用水が最大約13.3m<sup>3</sup>/s、水道用水が0.07m<sup>3</sup>/s、発電には岩知志発電所外4カ所で最大54.6m<sup>3</sup>/s、二風谷発電所で最大35.0m<sup>3</sup>/sの計89.6m<sup>3</sup>/s、等が利用されている。

表 5-1 沙流川水系水利用現況（法定河川内の許可水利）

名 称	最大取水量(m <sup>3</sup> /s)	件 数
発電	89.60	5
かんがい	13.32	105
工業	0.12	5
上水道	0.07	4
雑用水	0.15	4
計	103.26	123

（平成16年3月現在）

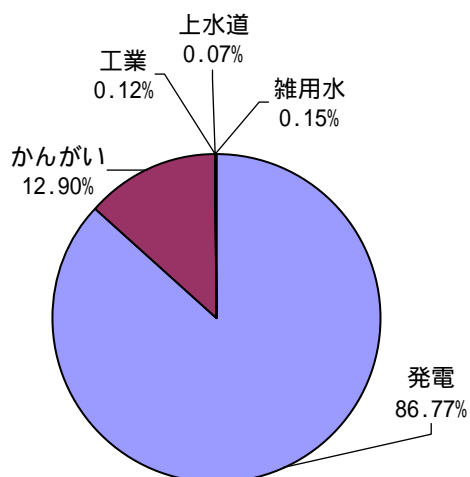


図 5-1 水利用割合図

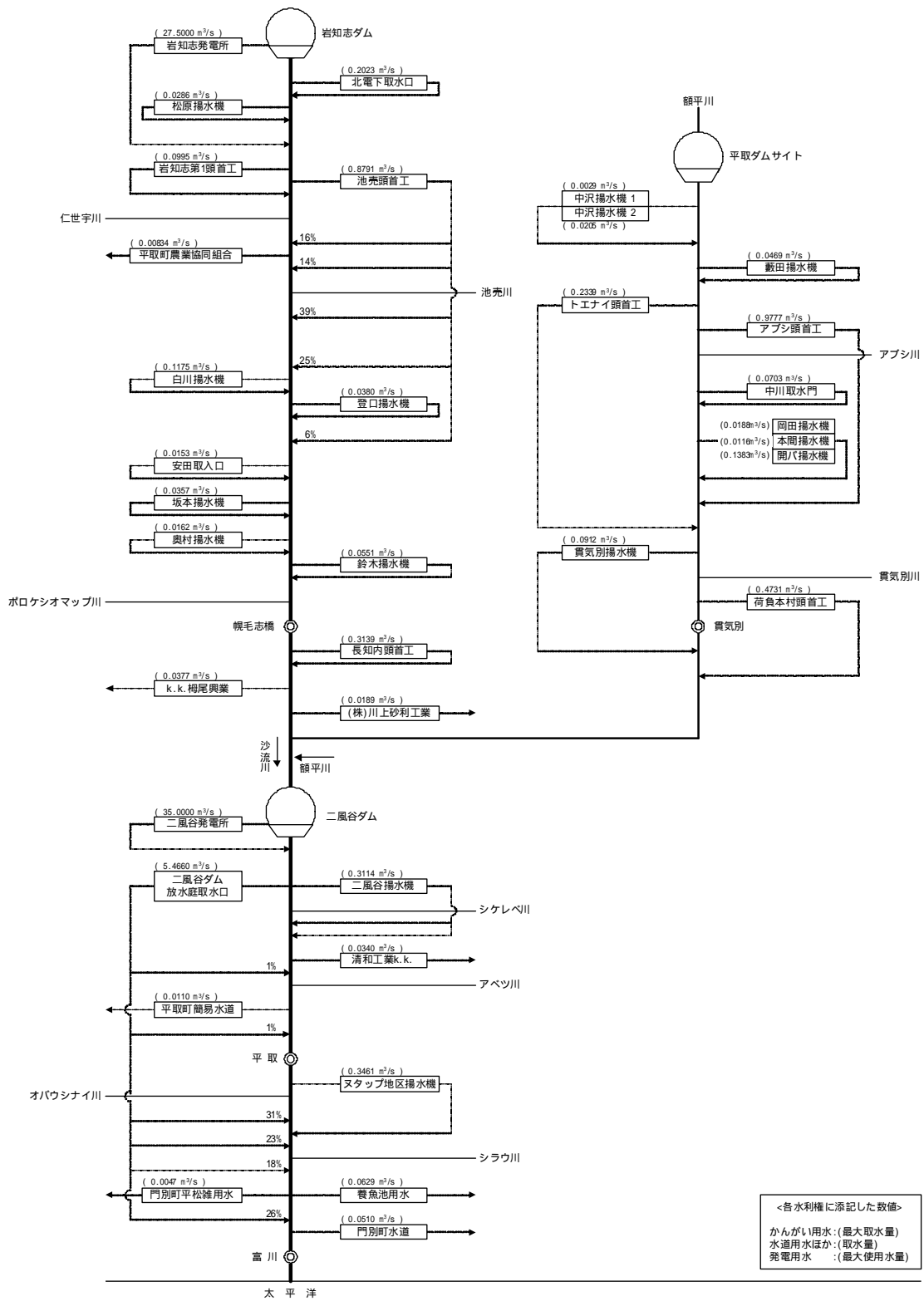


図 5-2 沙流川水利模式図

### 5-2 渇水被害及び渇水調整

沙流川水系において、過去に大きな渇水被害の報告はない。また、過去に渇水調整は行っていない。